

「継続は力なり」～クラブ独自性の継承を！～

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB.

2013 年(平成 25 年)9 月 25 日(水)
第 1147 回 例会報告



事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会

(村野 静男 SAA)

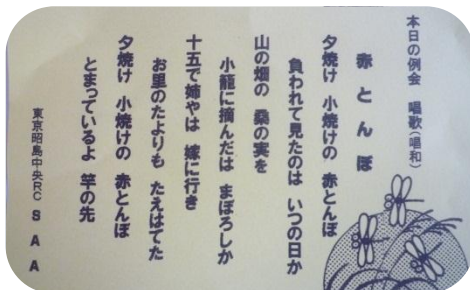


●開会点鐘

(平畑 秀東会長)

●ロータリーソング「我らの生業」斉唱

●「赤とんぼ」斉唱・「四つのテスト」唱和



●本日のお客様

米山奨学生 ネジュリ・オセアンさん

●会務報告

(平畑 秀東会長)

本日は 9 月の例会の最終日です。10 月は 2 日にクラブ協議会、16 日に会員 50 名達成記念例会、23 日に舟木ガバナーが来訪されます。

10 月は色々ありますので、皆さん是非とも参加していただき、元気な姿にお会いできることを楽しみにしております。

●幹事報告

(伊藤 満雄幹事)

本日の例会終了後、理事会が開催されますので理事の方々はご出席をお願い致します。

●長期(中期)計画について

西野 勝介長期計画委員長



はじめに、何故、長期計画は取り入れられたのかと…考えますとロータリークラブが発足してから今年で 108 年目になります。そして、ロータリーが創立 100 年を迎えようとする 2003 年、今から 10 年前、その頃から、世界中のロータリークラブの会員減少が始まり

ました。

それまで、100 年近くも、ロータリーブランドと言う名で成長して来た世界のロータリークラブも会員減少には危機感を感じた訳です。そこで、RI も方向転換をし始めたのです。

たとえば、会員一業種一人の原則から 5 人に枠を広げた入会条件の緩和、職業奉仕と言うアイサーブからウイサーブを重点にしたこと、それから、ロータリー公共イメージの広報ということでロータリーを前面に出すようになった事。

さらに、クラブのサポートということでクラブの強化を図るために長期計画を入れたことです。

ロータリーの活動は単年度制の活動です。毎年 7 月 1 日から 6 月末までの 1 年間で区切りとして会長・幹事以下の役職も交代し、奉仕活動も、単年度のうちに終わらせなければなりません。単年度の、一年交代制には長所もあれば、反面欠点もあるということです。

それで、単年度重視の活動だけではロータリーの強化につながらないということで、クラブを強くすること、又、指導者の育成に繋げるということで堅実性、継続性、能率性を備えた、中、長期の計画を取り入れたという訳です。

しかし、当クラブは昨年まで、クラブ管理運営委員会の一部のように取り扱われておりましたので長期計画については少し「なおざり」にされてきた感がいたします。

そういう事でこの長期計画を策定するには、先ず、クラブの現状を認識することが大切だと思います。

それは、昭島中央の強い所、弱い所…長所、短所を知ることです。

それから、会員それぞれのロータリーへの認識度、満足度なども把握する必要があります。クラブの現状、立ち位置を良く認識してクラブの短期、中期の計画を立てて行ければと思います。

ということで、温故知新「故きを温ねて新しきを知る」という言葉を持ち出しました。計画を策定するにあたり、やはり、昭島中央の原点、創立からクラブの過程を

知ること、研究することも大切と思い、例会で大切な、出席とプログラムの古い資料を見て頂きます。

お手元の資料1は…創立時の星野会長年度と、4年後の小山会長年度の出席率と例会プログラムの内容です。資料の、創立平成2年の5月30日の例会そして41は会員数で40は出席人数です。そして出席率と当時の例会プログラムの内容です。さらに、平成6年7月新年度の出席率とプログラムです。この、資料を作っている時、改めて思いました。どういう意味かと申しますと、先輩会員が良く言いました【ロータリーは仲良し会じゃないぞ…、ロータリーを仲良し会にするな】と「ロータリーは勉強するところ」「お楽しみ会ではない」と良く耳にした言葉です。

創立当時は当然、皆、ロータリー一年生ですから毎週、毎週のプログラムはロータリーの事ばかりで、勉強と出席競争のような毎週でした。それからの、4年後を見ても、出席率は少し下がりましたが、75%は確保しているので、ですね。プログラムも毎週、やはりロータリーの勉強を続けていたのですね。でも、昔は昔、今は今、ですから、良い所は大切に、今の時代、今の会員の満足度に合う、クラブ運営計画を立てていけば良いのだと思います。

さて先月、ロータリー増強月間に念願の50名の会員数に達成することが出来ました…と、前沢増強委員長が嬉しそうに報告しておりました。50名の会員数は、多摩中グループ12クラブでも上位ですし、とうとう、昭島ロータリーとも肩を並べたかあるいは超えたか？…というところで凄いですね。

これからは、会員50人に相応しく、クラブを強くすることが大事という事が本来の指針、目的と解釈致します。ところで、今、60名の会員のうち、入会5年未満の会員が60%を占めています。今年の25周年から30年に向けて、成長して行く時には、この60%の新会員が中心に昭島中央を引っ張って行かれるのではないかと思います。30年の歴史は重みもあります。そして、名実あるクラブにして行くのですから会員一人、一人が自分ごととして頑張りたいと思います。

さて、クラブの短期、中期計画を立てるにあたりこれを基本にしなければならない、大切な「効果的なクラブ」と言う言葉があります。その「効果的なクラブ(理想的なクラブ)」の一番先に挙げられているのが会員基盤の維持ということです。このたび、50人の増強の増「増やす」、ことは出来ました。さらに、大切なのは増強の「強」の強くすること。クラブを強くすること…、機能を高めていく事、と言われます。

効果的クラブの2つ目は地域社会及び海外のニーズにあった奉仕プロジェクトの実施と成果です。

3つ目にロータリー財団に寄付支援これもご存じの通りです。4つ目にクラブを超えて、ロータリーで奉仕出来る指導者の育成、です。これは、クラブから地区で活動の出来る人材を育てて下さいということです。

以上の4つを「効果的なクラブ」の要素と言います。そうすることで、これを基本に中、長期計画を策定しようと最初のクラブ長期委員会を7人で開催しました。その時の話し合いの中で当クラブの短期、中期目標計画の素案が3つ出ました。あくまでも、素案ですので決まったものではありません。

1つに強いクラブに向けて、真のロータリアンを目指す。このことについては、先程、申しあげたように、立派な50人の態勢は整いました。これからは内部の強いクラブ、強い会員になって行こうということです。

2つにロータリー財団の地区補助金やマッチング・グラントを活用、地域及び海外への国際奉仕。

3つに会員同士の意見交換、話し合いのプログラムを増やすことです。

その他の計画案はここに挙げられている通りです。この計画案をたたき台に、会員皆で討議してクラブに最も大切な目標の優先順位をつけ、3つ位に目標をしぼり、活性化して行こうと思います。

◎その他の長期(中期計画案)

- ・例会の活性化・指導者の育成・会員増強と維持・出席向上計画・広報計画(公共イメージの向上)・国内、海外との友好、姉妹クラブの締結・同好(趣味)会の設立・継続事業の見直し及び新規事業・会員の教育(オリエンテーション)・国際大会の参加計画・ロータリー財団支援・継続事業・その他、魅力あるクラブの独自の計画案

●ニコニコBOX発表 (石岡 孝光親睦委員)

◎平畑会長

長期計画について、西野委員長、宜しくお願いします。

◎伊藤幹事

卓話、西野会員ありがとうございます

・石川会員

世間をお騒がせしていますのでニコニコいたします。

・佐藤会員

長期計画委員長 卓話よろしくお願いします。

・鈴木会員

西野委員長、本日の卓話ありがとうございました。

●出席報告 (指田 裕士出席委員)

会員数	50名	出席義務会員	48名
本日の出席	30名(メイクによる出席者数を除く)		

●委員会報告 (曳地 義正社会奉仕委員長)



スポーツ祭東京 2013 東中神駅前おもてなし事業についてですが、事業内容は広報委員会の岸川委員長にポスターを作成していただいて、それを展示して昭島中央ロータリークラブの宣伝をするということに決まりました。

西野会員にボードをお借りして展示いたします。

当日は、社会奉仕委員会並びに広報委員会のメンバーに何時間か交代で詰めていただきたいと思います。

●次週例会予定 (鈴木 栄プログラム委員長)

10月2日(水)

クラブ協議会「会員増強と25周年をふまえて」

ガバナー補佐訪問

●閉会点鐘 (平畑 秀東会長)